

Fresh leaves 青葉小

発行者：校長 鈴木 弘毅 文責：教頭 R6.6.5

「ありがとう」があふれる学校に

6月になり、1年生も学校生活に慣れ、朝、アサガオの世話をしたり、係活動に取り組んだりしています。先日の内科検診では、検診前に並んでいるときにはやや不安な顔でしたが、検診後に「ありがとうございました。」と大きな声で言える児童が多くなりました。

「ありがとう」の語源は「有り難し」と言われています。「有り難し」、「有る」ことが「難しい」、つまり「減多にない」ということです。「ありがとう」の反対の言葉は「当たり前」です。「減多にない」ことの逆ですから「当たり前」ということになります。

学校生活のなかで、児童が「当たり前」に思っているもの、例えば、給食。温かいものは温かく、冷たいものは冷たく、時間通りに毎日おいしい給食が届けられています。毎日繰り返されている日常ですが、児童の成長を考え地元や旬の食材を取り入れた献立を作成したり、調理したり、届けたり、窪田栄養教諭、調理員さん、配送の運転手さん、配膳員さん、食材の生産者さんとたくさんの人に支えられています。「当たり前」と思っていることが「有り難い」ことに改めて気付かされます

学校教育活動では、登校時に下級生に気づかいながら班長が歩くこと、係や当番活動、委員会活動、掃除、学び合いの時に友達に分かりやすいように丁寧に説明するなどの一見「当たり前」の活動のなかで児童同士の「ありがとう」という言葉が聞こえてきます。児童は「当たり前」のことに、「ありがとう」を感じながら生活しています。

今後も日常の「当たり前」に対して、児童の「ありがとう」を感じる感性を育てることを保護者の皆様と行っていきたいと考えております。

